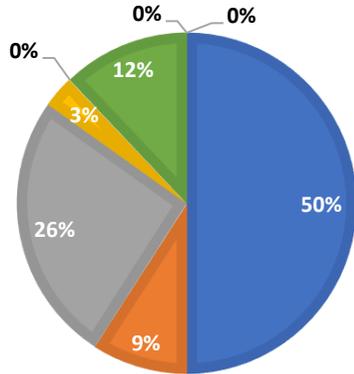


自主防災組織等の実態に関するアンケート

回答数 45 組織 (全送付数 56 組織)

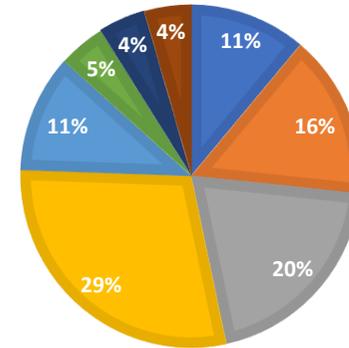
地域の特徴

- 山のある地域
- 川のある地域
- 坂の多い地域
- ため池の多い地域
- 雪の多い地域
- 木造密集地域
- 工場密集地域
- 特になし



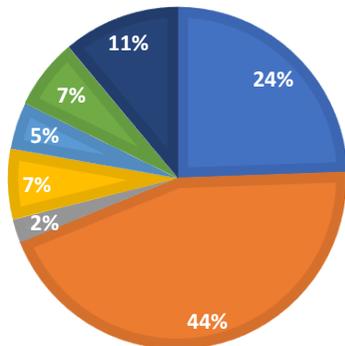
役員の数

- 1人
- 2人~5人
- 6人~10人
- 11人~20人
- 21人~30人
- 31人~50人
- 51人以上
- 未回答



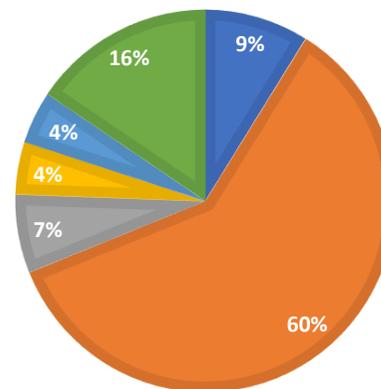
女性役員の数

- 0人
- 1人~5人
- 6人~10人
- 11人~20人
- 21人~30人
- 31人以上
- 未回答



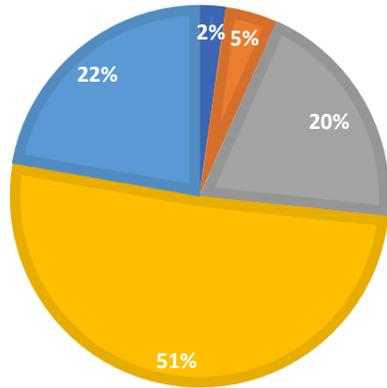
代表の任期

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- なし
- 未回答

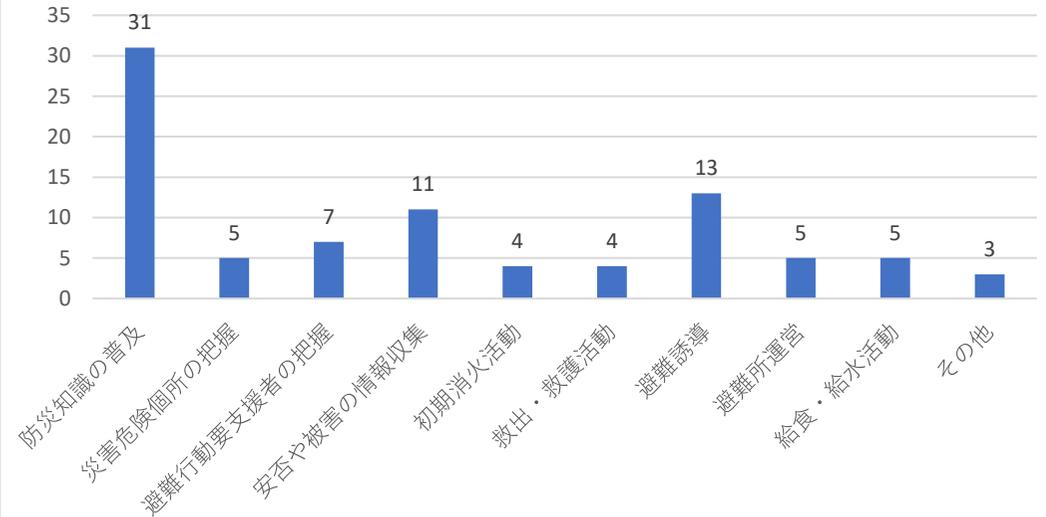


代表の年齢

■ 40歳未満 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳以上

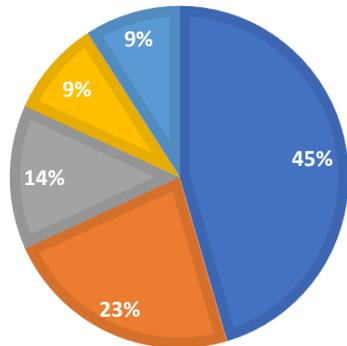


最も重要だと思う役割



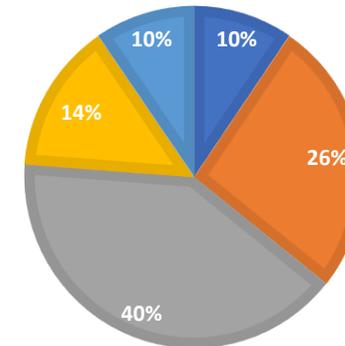
加入している世帯数

■ 50世帯以下 ■ 50～100世帯 ■ 100～200世帯
■ 200～300世帯 ■ 300～400世帯



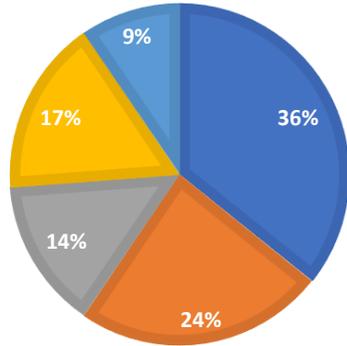
加入世帯の高齢者（65歳以上）の割合

■ 25%未満 ■ 25%以上～50%未満 ■ 50%以上～75%未満
■ 75%以上 ■ 分からない

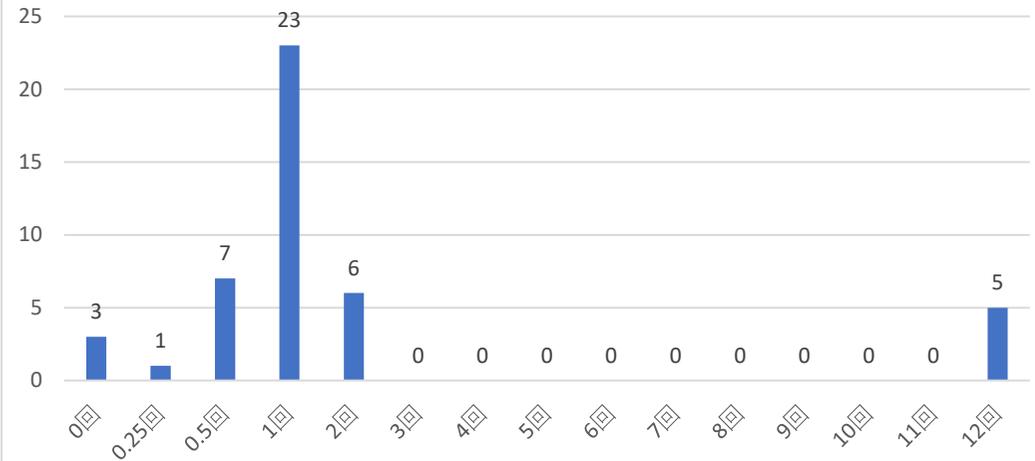


女性の割合

- 25%未満
- 25%以上～50%未満
- 50%以上～75%未満
- 75%以上
- 分からない

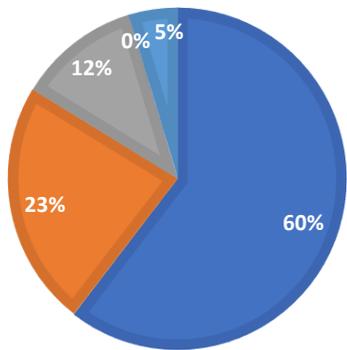


防災訓練の開催頻度（年間）

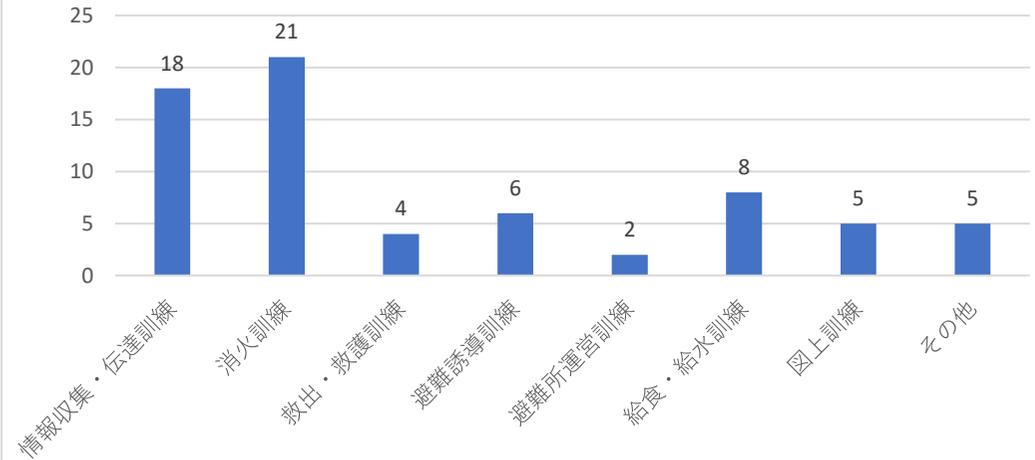


1回当たりの防災訓練への参加者数

- 50人以下
- 50～100人
- 100～200人
- 200～300人
- 300～400人

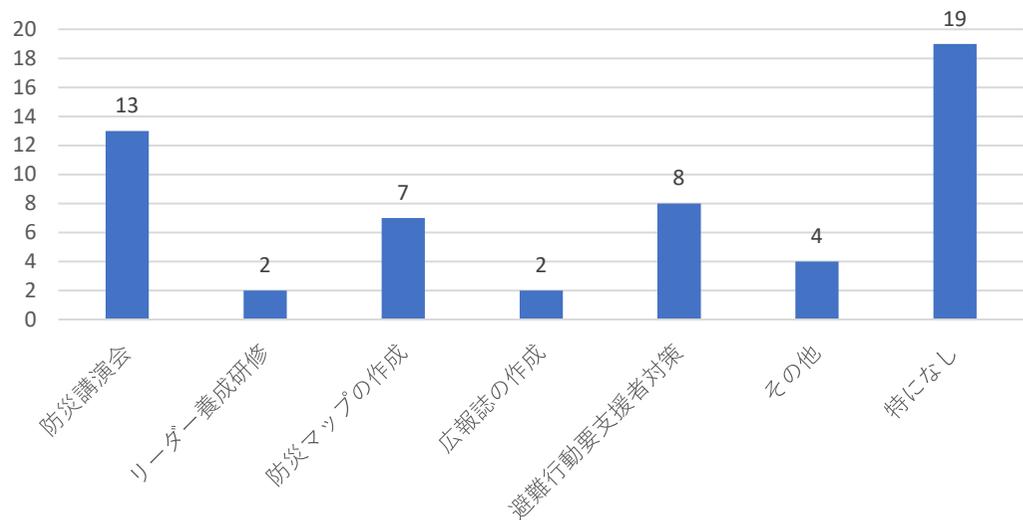


実施している防災訓練の内容



その他：消防署の方の講話、煙体験、防火水槽周辺の草刈

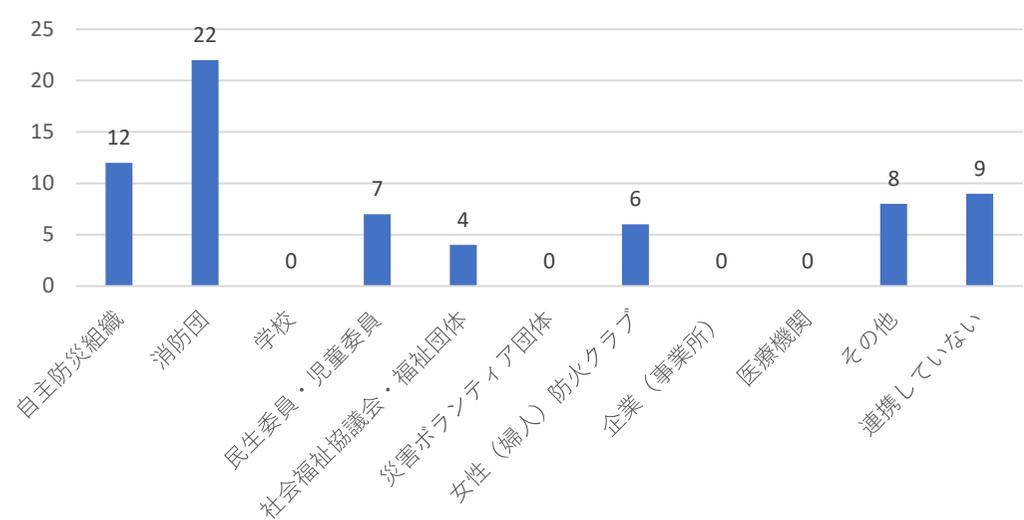
実施している防災訓練以外の活動



その他：防火水利周辺草刈、市大規模水害対策訓練視察、
ニュースの発行（毎月）、防災クイズ（新年）

防災訓練以外の活動をしていない組織は42%

連携している組織

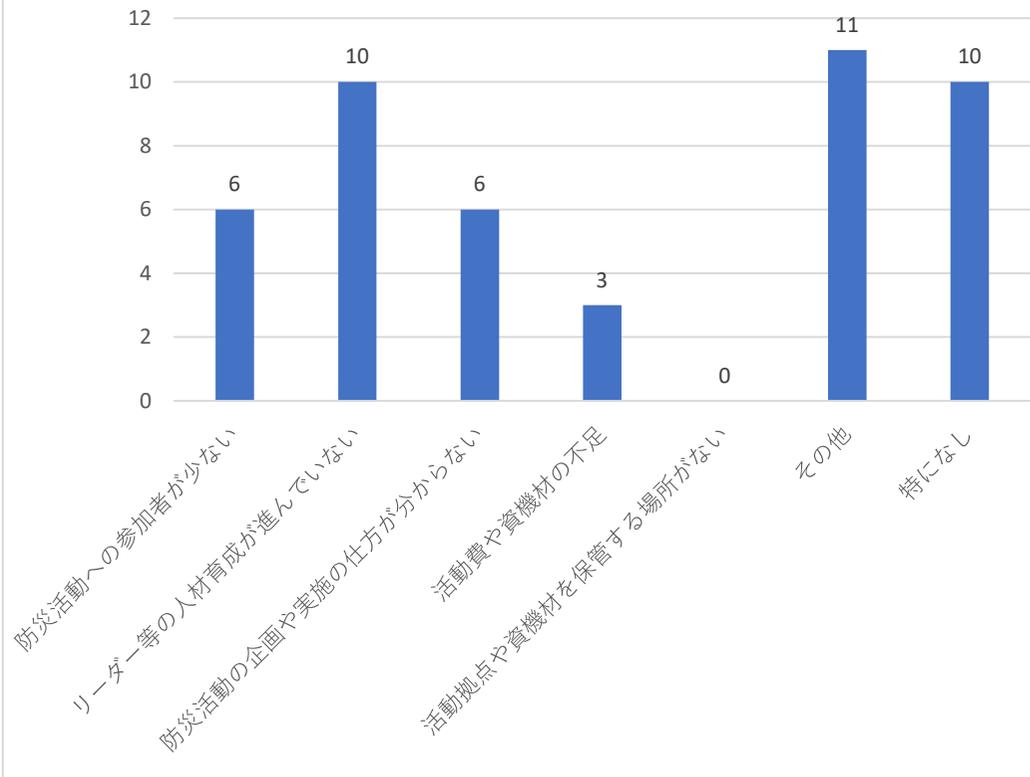


その他：地域の協議会、福祉施設、幼年消防クラブ、消防団OB、
町内会、日赤

他の組織と連携して行っている活動内容

- 防火水利の点検・周辺草刈り・車両進入路の整備
- 防水訓練
- 消火訓練
- 炊き出し訓練
- 土のうの作り方実習
- 一人暮らしの高齢者宅の火の元点検、見守り訪問
- 防火啓発活動
- 防災講話
- 要援護者の把握

特に課題となっていること



その他：防災に対する危機意識がない、地区間の格差（防災意識のズレ）、豪雨災害時の避難場所移動が困難な時の安全確保、食料の備蓄、高齢者の安否確認、少子高齢化、過疎化、安全な避難所が近隣にない

課題の原因

- 話し合う機会が少ない
- 災害リスクのある地区とない地区があり、防災に関する意識に大きなズレがある
- 高齢者が多く、先に立つ人が少ない
- 高齢者が多く、車を持っていない人が多い
- 高齢者が多く、活動に消極的である
- 若い人が入会せず、組織が高齢化している
- 高齢化と人口減少が進んでいる
- 若い人は仕事があり、共働きで、活動の参加が難しい
- 毎年委員が交代し、組織に対する意識が薄い
- 防災に対する意識が低い
- 備蓄食料の確保（アレルギー対応備蓄食料含む）
- 広くて、安全な避難所が近くにない

活動で工夫していること

A 防災活動の参加者を増やす工夫

地域コミュニティ協議会と連携している
開催場所をできるだけ居住地に近くを選ぶ
訓練の案内を全戸に回覧している
近所で声掛けをして、車に乗り合わせてもらう
なるべく皆が集まれる日に実施する
毎年、継続して実施する
連絡網の充実

B リーダー等の人材育成の工夫

役員が輪番で、皆で研修会等を経験する
他の町内のリーダーとの研修会に参加する
リーダー研修会（岡山消防学校）に参加
防災活動のイベントに必ず参加者を出し、当日の内容を役員会等で発表してもらう

C 防災活動を企画・実施する上での工夫

他の組織に入ってもらい企画している
毎月実施し、反省・評価を毎回行う
市・消防の協力を得て、実施している
実際に起こる可能性の高い災害を想定し、安否確認を主眼としている
被災者の生の声を聞く活動を実施した
クリーン作戦終了後に実施している

D 自主財源を増やす工夫

町内会費の集金
補助金の活用
年4回の資源回収
会員の家庭内の品をバザー品として持ち寄り、高梁ニコニコ市場で販売

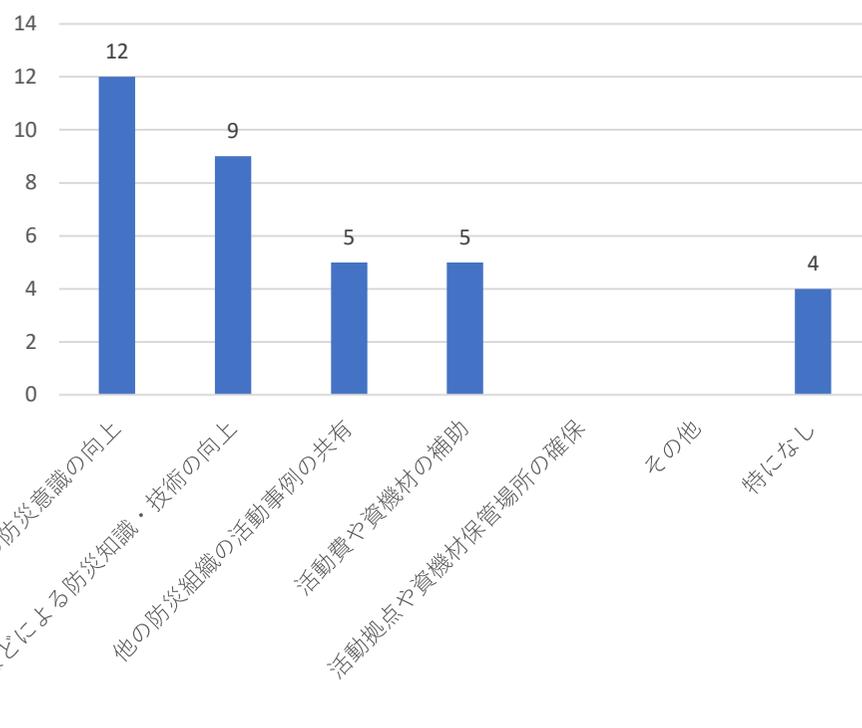
E 活動拠点や資機材保管場所を確保する工夫

コミュニティハウスや公会堂等を使用
コミュニティハウス等の施設内や設置した倉庫に資機材を保管している
消防団の協力で、消防器庫に資機材を保管している

F その他の工夫

日頃から取り組んでいる

防災活動を活性化するために特に支援してもらいたいこと



その他要望・意見

- 組織離脱者（町内会に入りたくない人、60歳代の人）があり、活動の不安がある
- 外国人への呼びかけをし、連携を大切にしていきたい
- 指定避難所を充実してほしい
- 町内全体の災害用住宅地図を市より提供してほしい
- 自由に使用できる活動費の補助をお願いしたい
- 避難所に車イスを設置してほしい
- 災害時に組織にどう支援すればよいか指示がほしい
- 昔ながらの事業が、1つの自助、共助であり、見守りであり、助け合いである
- 指定避難所に少量でも非常用品の配布を強く要望します
- 不適当な避難所もあるため、再検討をお願いします
- 高齢化で防災活動がなかなかできません
- 個人の防災意識を高める施策を実施してほしい
- 市として危険地域に出向き、現場を確認し、職員としての防災意識を高めてほしい
- ハード面の施設整備の促進も必要
- 防災担当と消防担当の連絡・調整が不十分ではないか
- 防火・防災の意識改革が必要で常に呼びかけていくことが必要

今後の方向性

- 地域住民と協力して、今後も長く訓練を続ける
- 防災・減災についての意識を持つことを継続する
- 自助・共助の意識の向上で、家庭内の対策を進める
- 要支援者の支援方法の訓練
- 消防団と連携
- 民生委員、福祉委員、町内会長と連携し、組織の固定化を行う
- 災害時要配慮者の安否確認の流れを確立する
- 地域の方との情報の共有を図る

- 一人ひとりの防災意識を高める
- 活動の基礎を築き、次世代に繋げる
- 防災に対する意識の向上に努める
- 自分で災害に対処できるようになってもらう
- 他の団体と連携し、要支援者を把握し、避難計画を作成する
- 被害を最小限で抑えられるような組織をつくる